

## 【第19回日本聾史学会山口大会】

# 大阪聾口話学校初代校長 加藤亨と小西薬剂学校

## 渡 辺 徳 浩

\*<sup>1</sup>日本聾史学会, \*<sup>2</sup>兵庫聾史同好会

### 1. はじめに

大阪府立生野聴覚支援学校は創立されてから今年90年（2016年）を迎えた。大阪聾口話学校初代校長加藤亨と小西薬剂学校とその他について、まだ十分な調査しない点が多少ご存じます。大阪聾口話学校と大阪府立生野聾学校と大阪府立生野聴覚支援学校は「本校」と表します。

### 2. 加藤亨とは

1875年（明治8年）8月14日、大阪市東区島町二丁目十八番で長男として生まれる。父は福井藩出身医臣謙蔵。母はすみ刀自。東京帝国大学医科大学出身。2年半で海外留学を体験。大阪医科大学博士。35歳で春代と結婚して一女一男もうける。1936年（昭和11年）12月19日逝去。61歳。



### 3. 耳鼻咽喉科加藤病院

1926年（大正15年）8月に大阪医科大学教諭を退職。同年9月6日に耳鼻咽喉科として開院。岩佐守三副院長と一緒に働く。午前8時から午後6時まで診察する。同年6月11日、屋上にて聾児と遊んでいる。



### 4. 大阪聾口話学校とは

1926年（大正15年）5月2日、大阪市東区伏見町一丁目の小西薬剂学校を仮校舎として授業開校される。最初の生徒16名あった。創立記念日である。口話法教育の中心であった。大正天皇は同年12月25日に崩御した。

### 5. 小西薬剂学校とは

1917年（大正6年）12月5日、夜学と

して東区伏見町二丁目に創設。初代理事長兼校長は小西久兵衛。1927年（昭和2年）、昼間を小西商業学校として開校。1928年（昭和3年）10月1日、東区糸屋町二丁目へ移転。1941年（昭和16年）廃止。1929年（昭和4年）5月1日、小西薬剤学校を仮校舎として大阪女子商業学校を開校。1931年（昭和6年）9月1日、東区八軒家より河堀口（阿倍野区天王寺町南）に移転。現在は学校法人朝陽学院とあべの翔学高等学校と繋がっている。なお、コニシ株式会社とは全く別である。



## 6. 学校名称の変遷史

大正15年5月2日～大阪聾口話学校。

昭和6年4月1日～大阪府立代用聾啞学校。

昭和8年3月31日～大阪府立聾啞学校。

昭和8年6月15日～大阪府立聾口話学校。

昭和23年4月1日～大阪府立聾学校。

昭和26年4月1日～大阪学芸大学代用附属ろう学校。

昭和29年10月1日～大阪府立生野ろう学校と改称。大阪府立生野ろう学校鶴橋分校設置。

昭和36年4月1日～本校と分校を入れ替え。従来の本校を桃谷分校に、鶴橋分

校を本校にそれぞれ変更。

昭和37年4月1日～大阪府立生野聾学校、大阪府立生野聾学校桃谷分校。

昭和49年1月1日～桃谷分校を勝山分校に改称。

昭和59年3月31日～勝山分校を廃止。高等部は大阪府立生野高等聾学校として独立し、旧勝山分校敷地を継承。

平成20年4月1日～大阪府立生野聴覚支援学校に変更。

## 7. 大阪聾口話学校敷地移転について

大正15年5月2日、東区伏見町一丁目の小西薬剤学校教室。

大正15年8月2日、東区淡路町の汎愛小学校教室。

大正15年9月1日、東区安土町の汎愛幼稚園階上大広間。

大正15年11月15日、同園階下物置。

大正15年11月29日、東区北浜三丁目の桜根博士ローマ字会館。

昭和2年4月30日、西区江戸堀北通五丁目の愛国婦人会館。

昭和3年8月4日、東成区岡之町（生野区勝山北）新校舎へ移転。翌月1日始業式する。

昭和29年10月1日、生野区桃谷一丁目に鶴橋分校（現在の大阪府立生野聴覚支援学校）を設置。

## 8. 小西薬剤学校跡地

小西薬剤学校は旧大阪三越呉服店裏（三越大阪は東区高麗橋二丁目）に建てる。現在はビルとなっている。川は東横堀川。



## 9. 加藤病院跡地

加藤が1936年（昭和11年）12月に逝去した後に加藤病院はどうなっていたかについて、「加藤亨君伝」は1938年（昭和13年）12月10日発行されている。発行所は大阪市東区道修町一丁目十一番加藤病院内と記載されている事から、加藤夫人の甥に当る井村孫一郎によって継続される。1938年（昭和13年）以後は分かっていない。現在はコンビニとなっている。



## 10. 生野高等聾学校跡地

1984年（昭和59年）4月1日に本校から高等部が分離独立し、高等部のみの大阪府立生野高等聾学校に変更し旧校舎敷地を継承。2006年（平成18年）3月31日付で、大阪府立堺聾学校高等部と共に新設のだいせん高等聾学校に統合され、閉

校した。その後校舎解体した。跡地は隣の東桃谷小学校の拡張用地として転用された。1928年から2006年までの78年間愛着していた土地である。東側の校舎は高等部。面影が全く無くなった。

## 11. 加藤亨銅像

1931年（昭和6年）10月30日、除幕式される。

以下は旧漢字と平仮名を代えています。

台石は積上は第一段高さ二寸五分、五尺六寸五分平方。第二段は二寸五分、五尺一寸五分。第三段は二尺二寸五分、四尺七寸。第四段は七寸五分、四尺。第五段は七寸五分、三尺三寸。第六段は一尺三寸、二尺六寸各平方。銅像は高さ五寸、二尺三寸方形の銅像台に直径一寸丸長さ一尺の鉄ボルト三本を入れ、セメントにて止め五尺五寸。正面中央に幅七寸、長さ三尺、厚さ一寸の銅板「加藤亨先生像」。背面に碑文「徒四位勲四等医学博士加藤亨先生大阪聾口話学校を設立し学校長として親しく児童の教養に尽瘁せらし恵沢洽ねく著はる吾等保護者会員一同其慈恩を感銘し今慈学校創立五周年に当り敬しく先生の寿像を校庭に建つ、昭和六年五月二日」。(旧漢字と平仮名を代えています)



大東亜戦争期、1943年（昭和18年）8月12日に日本政府から金属類回収令が勅令され、銅像を回収された。本校の銅像を設置された跡地は閉校となった専攻科校舎の辺り。後になって胸像だけ返して来た。（生野聴覚支援学校第14代校長坂井美恵子先生の談）。胸像は現在の本校校舎内に設置されている。沿革史の石碑を設置されている。

## 12. 加藤亨と岡田啓介

岡田啓介は海軍元帥、元首相である。両人の先祖は福井県の加藤家と岡田家同士であって、生前に交流親しくあった。海軍大臣だった岡田は1932年（昭和7年）11月14日に本校授業参観のため来校。1935年（昭和10年）九州から帰り途中で立ち寄って加藤病院へ訪ねていた。1936年（昭和11年）2月26日は2・26事件発生し、28日加藤亨は東上し死亡だと信じて合掌した。無事にしてる報を聞いて、ひと安心した。同年12月加藤亨が逝去した時、岡田は東京から加藤亨葬式に参列した。



## 13. 聴話練習について

本校で拡声機（擴聲機）による聾児に目隠して、聴覚を働かせるためという。

この練習は加藤の創案した。

## 14. 西川父娘と橋村徳一と名古屋盲啞学校聾児

1926年（大正15年）3月14日、大阪放送局にて加藤と西川吉之助と橋村徳一と豊田良一郎は出席。西川はま子と名古屋市立盲啞学校水谷定一（山谷貞一）と豊田ます子（ます江）の実演を放送された。大きな反撃であった。

### 西川父娘と橋村徳一と名古屋盲啞学校聾児

1926年(大正15年)3月14日、大阪放送局にて加藤と西川吉之助と橋村徳一と豊田良一郎は出席。西川はま子と名古屋市立盲啞学校水谷定一と豊田ます子の実演を放送された。大きな反撃であった。



## 15. 徳川義親

1929年（昭和4年）4月25日、口話法支持だった徳川は本校に訪ねて、拡大機に聞く。加藤と西川と一緒に写っている。



## 16. 加藤亨生家跡

出生から1903年（明治36年）の19歳まで暮らしていた現在の大阪府中央区島町



二丁目の生家。長光寺の方が近い。現在はビルとなっている。昔は大阪城の方へよく見えるかもしれない。

=参考文献資料=

- 「加藤亨君伝」1935年
- 「春秋八年」1933年
- 「春秋十五年」1941年
- 「創立より新校舎の竣工に至るまで」1928年
- 地図「東区」1931年、1936年、1954年、1983

年

地図「東成区」

地図「生野区」1954年、1961年、1979年

「東区史」第二巻 1940年

「大阪製菓史」一卷 1943年

「関西名士写真録 小西久兵衛」国立国会図書館デジタルコレクション

大阪女子商業高等学校のHP

学校法人朝陽学院 公式HP

生野聴覚支援学校の公式HP Wikipedia

あべの翔学高等学校の公式HP Wikipedia

岡田啓介 1868年生～1952年没 Wikipedia

徳川義親 1886年生～1976年没 Wikipedia

西川吉之助 1874年生～1940年没 Wikipedia

西川はま子 1916年生～1957年没 近畿ろうあ連盟女性部大学習会

大阪府立生野高等聾学校 Wikipedia

「小西薬劑学校DVD 大正6年12月5日」大阪女子高等学校

小西久兵衛1868年生～1950年没 HP「もっと知りたい あべの発見！7つのあべの物語 34/72」

調査協力してくれた今泉友幸氏

金属類回収令 Wikipedia

1寸=約30.3cm

1尺=約3.03m

五分=約1.515cm